

キミの  
冬休み中にニガテ克服！

# カワズ書房

の本で



夢も未来も  
どんどん広がる！

※信じられないかもしれませんが  
フィクションです

TAKE FREE

オレ、新庄サトル、14歳、中学2年生。サッカー部期待の新エース！……だったらいんだけどなあ。3年生の先輩たちが引退して、エースの座についたのはライバルのアンドレ（ハーフ）。期末テストの結果までアイツに負けて、なんだか散々な今日この頃だ。あーあ、ニガテな世界史なんて79点だよ……最低記録更新だあ。

「どうしたの、サトルくん。ため息なんてついて」

「あつ、きみはサッカー部マネージャーで全校生徒あこがれのマドンナ、ミカちゃん！」

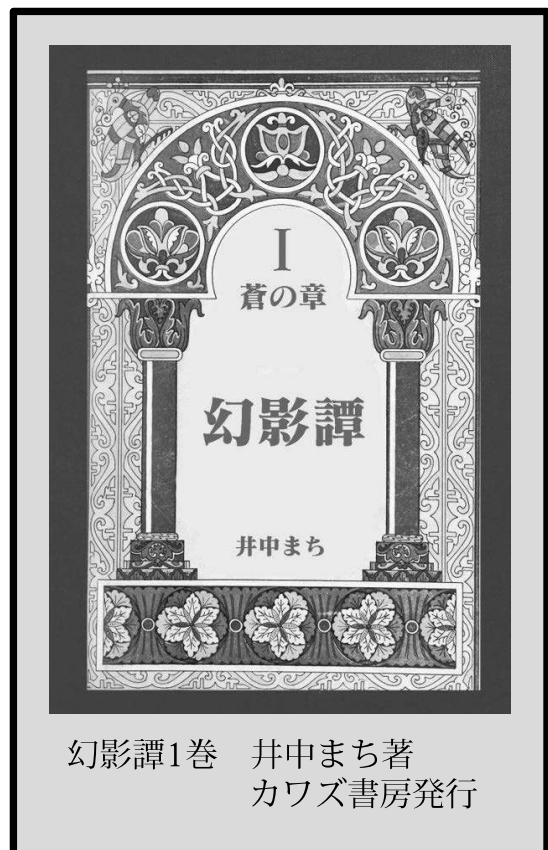
「そう、いかにも私がサッカー部マネージャーで全校生徒あこがれのマドンナ、ミカだけど、そんな私がどうしてさえないキミに声をかけたと思う？」

「えー、なんでだろう。ひよっとしてオレに気があるとか？」

「全然違うよ。79点という進研ゼミの広告漫画の主人公並みの点数をとってしまったキミに、この私がとっておきの**得点アップ法**を教えるよ！」

「すごいや、ミカちゃん。オレのテストの点まで把握してるなんてさすがマネージャー！ やっぱオレに気があるんだね。はやくその方法を教えてよ！」

「じゃあ早速教えるね。この方法はね、なんと**1冊の本を読むだけでいい**の。その本というのがコレ！」



幻影譚1巻 井中まち著  
カワズ書房発行

「**幻影譚**？ カワズ書房……聞いたことないなあ」

「そうだよね、だってこれは同人誌だから。つまり一般には出回ってない本ってこと」

「特別な本ってこと？」

「そう言い換えることもできるかな。同人誌が出るかどうかは作者の気力と狂気と経済力にかかっているの。印刷代が捻出できなかったらたとえ原稿ができていたとしても本の形にはできないからね」

「へえ、大変なんだ」

「世の中には簡単なことなんてないのよサトルくん。それじゃ、本の中身を覗いてみましょう！」

序、いいわけ

アウロラIIデイオーリエスタスといえば、知らぬ者はない中世ウルズの女傑であるが、その足跡を伝えるものは意外にも少ないようである。

とある研究所を訪ねた折、思わずいやになりはしませんかと訊いたことがあったが、このくらいのほうが追っかけがいもありますとのことであつた、なるほど道理である。

こんな話がある。

ただ一度、自ら整えた息子の後宮に出向き、ずらと並んだ花々を一瞥するや

「笑止」

と放つて踵を返したという。このとき、三十四、五であつた。

これを聞くと、多くは男女の別なく惚れる。筆者もそのひとりである。そうして研究を志すがなかなか難しい。

※本文より一部抜粋・ルビ等を省いています

「うっ、ミカちゃん、これもしかしてオレのニガテな世界史の本なんじゃないの？」

「よく気付いたねサトルくん！ そう、これはかの有名な女王アウロラの人生を描いた物語なの！」

「あつ、アウロラ女王ならオレにもわかるよ。世界で唯一の竜が住む大陸、ドラグニア小大陸にあつたウルズ王国でいろいろすごいことをした人だよね。でも、どうしてこれが**得点アップ**につながるの？」

「ふふふ、サトルくん、これを見て！」

「ありがとう。あとはうまく誤魔化しておいてくれ」

「ひどく面倒ですが、承りましょう。ただし、その代わり」

「なんだ？」

「その服も、帯も、わたくしのお気に入りです。無事に返さなかったら承知いたしませんよ」

まったく、本当に遠慮というものを知らない侍女である。エヴェリートは笑つて、答えた。

「ああ、わかった。行ってくる」

「この1シーンに得点アップの秘密が……？」

「ううん、これは私の推しシーン」

「推しシーン」

「ネタバレの関係であまり引用できないけど、他にも推しシーンはたくさんあるの。つまりそれだけ物語に夢中になれるってこと。これなら、ニガテ意識もどこかへ行っちゃうでしょ？」

「なるほどー！」

「それにね、物語を追ううちに自然と知識も身につくの！」

「ここですこし余計な説明をしておくが、当時のドラグニア小大陸では、火葬が一般的であった。「人間は罪深きものであり、本来ひとつであるべき男女が分かれた体そのものが、その罪の具現したものである」とする彼らの神の教えについてはだいたいぶまえに軽く触れたが、覚えておいでだろうか。彼らにとつて、肉体は不名誉で穢れたものであった。だから、焼いてしまうのだ。だそれには例外があって、彼らの精神的指導者である神子、すなわち「男女」という枠に当て嵌まらない身体を持って生まれた人だけは、焼かれない。」

「あ、本当だ！　ここぞとばかりにうんちくを垂れ流している！」

「こういう記述が随所に挟まれるから、ドラグニアやアウロラ女王に詳しくなくても安心して読めるのね」

「うーん、でもなんだか難しそうじゃない？」

「それが全然難しくないの！　なぜなら、この本のコンセプトは『**大人も男性も楽しめる少女小説**』だから！」

「えっ、少女小説？」

「そう、だからこういうシーンもけっこうあるんだよ」

「私が覚えている」

力強い言葉とは裏腹に、瑠璃姫を包み込むベルナルの腕はかすかに震えていた。

「私が覚えている。あなたのことも、あなたの大切なひとたちのことも。思い出したくないのなら思い出さなくていい。忘れたいことなど忘れてしまえばいい。もとに戻してやるとか、守ってやるとか、そんな傲慢なことは言わぬ。だから……」

息が詰まるほど、強く。

「頼む。……そばにいさせてくれ」

「なんだか甘酸っぱいにおいがするね！」

「ちなみにこのシーンは作者が砂糖と血反吐を吐きながら書いたんだって！ じつはこの話、要するに壮大な痴情のもつれとすれ違いの激しいいろんな愛情によって滅びた国を建て直そうってだけのことなのね」

「すごいしようもない感じがするね！」

「でもそれぞれの生き様や死に様にはそれなりにいろいろなんやかんやあるから、なにかしら感じてもらえたら嬉しいな」

「死ぬんだね」

「死にます」

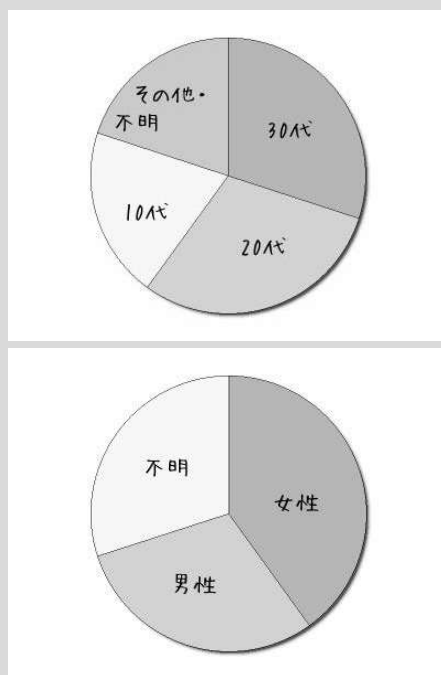
## チェックポイント！ 死にます

「ところでミカちゃん。これって少女小説なんでしょ？ ちょっとオレには合わないような気が……」

「もう、だから言ったでしょサトルくん。これは『大人も男性も楽しめる少女小説』を目指して書かれた本なの。だから現役DC（男子中学生）のサトルくんもバッチリ守備範囲だよ！ 実際にDCに読まれたことはないけどね！」

「ないんだ」

『幻影譚』読者層（たぶん）



※作者の体感かつすごい適当です

DCの存在は確認できていません

「まあでもいろんな人が読んでるよ！」

「わあ、本当だ、これなら安心だね！ でも……ねえ、ミカちゃん。この本、『1巻』って書いてあるよね」

「そうだね。幻影譚は現在3巻まで刊行中、以下続刊だよ！」

「1冊の本を読むだけで得点アップじゃなかったの？」

「**3冊でも10冊でも実質1冊だよ！** それに、カワズ書房の本はほとんどが**文庫本だから手軽に持ち歩いて、スキマ時間に読めちゃうの！**」

「なるほど！ これならオレにもできそうだ！ よーし、やるぞー！」

そしてオレは帰宅後、すぐ母さんにそのことを伝えた。

「ええー、カワズ書房の本？ あんたそう言っただけじゃん」と読んで読まなかったじゃない」

「母さん、いままでとは違うんだ。オレ、カワズ書房の本で自分と向き合っただけで、夢と未来を切り開きたいんだ！」

「ふーん、今度は本気みたいだね。わかった。やるだけやってみなさい」

カワズ書房の本は同人誌即売会のほか、通販でも手に入る。即売会まで待てなかったオレは、さっそく通販で注文した本を読み始めた。

「幻影譚は7世紀の話なのか……うーん、他の時代について書いてある本は……あった！」

幻影譚の800年後（15世紀）の変革期に生きる少年たちを描いた『**暁を抱いて眠れ**』が運よく再販されていた。

さらに『幻影譚』の二次創作アンソロジー『**幻影たんっ☆**』も在庫が残りわずかということなので慌てて手に入れた。冬休み中、宿題も忘れて夢中で読んだ。

そして、3学期の期末テスト――

「これ、『幻影譚』でやったところだ！ こっちは『暁を抱いて眠れ』！ うそだろ……オレ、**ニガテを克服して世界史が得意**になってる！」

なんと、オレは世界史のテストで満点をとったのだ！

「負けたよ、サトル。きみ、サッカーもどんだん強くなるじゃないか」

「アンドレ……ああ、こいつのおかげさ」

「**カワズ書房の本**……？」

「そうさ、オレはこいつのおかげでニガテを克服できたし、その分サッカーの練習にも打ち込めるようになったんだ」  
「そうだったのか。サトル、ボクにも教えてくれないか、その本のすごさってやつを。このままきみに負けたくないからね！」

「ああ、いいぜ！ のぞむところだ！」

「サトルくん！ あ、アンドレくんも一緒だったんだ」

「ミ、ミカちゃん」

「なにになに？ カワズ書房の本のハナシ？ 私も仲間に入れてー！」

こうしてオレは、充実した中学生生活を手に入れた。3年生になってもカワズ書房の本を読み続けて、サッカー部強豪高校にエースとして入学するんだ！

**さあ、キミもいますぐカワズ書房の本で夢と未来を切り開こう！**

## 保護者のみなさまへ

カワズ書房は、お子さま及び保護者のみなさま、その周辺のみなさま、この地球に生きるすべての生命の愛と夢と未来を守り、豊かに広げていくことを目標に活動しております。

小説の題材には、日本の学生たちにあまりなじみのないドラグニア小大陸の歴史を選び、綿密な取材とあふれる妄想をもとにエンターテインメント作品として親しんでいただけよう努めてまいりました。そのため、一部に史実とは異なる展開や、やや過激な表現も含まれております。

しかしそれこそが、本当の歴史、文化、そこに生きる人々への関心を誘うのに重要な要素であるように思われます。

どうかいま新たな扉を開け、歩き出そうとするお子さまの手を取って、導いてあげてください。



## 無料お試しキャンペーン 実施中！！

個人サイト『カワズ書房』で

- ・『幻影譚』シリーズ全文
- ・『暁を抱いて眠れ』1章
- ・その他完売した本

のWEB版を無料公開中！※いつも

「とりあえず試し読みしてみたい」  
という方はQRコードからどうぞ！



(<https://kawazushobou.jimdofree.com/>)

「やっぱり紙の本で読みたい！」

「あっ、イベントであの本買い忘れた！」

そんなときは…

**BOOTH 通販がございます！**

匿名配送(あんしんBOOTHパック)でお互いに住所・名前を知られることなくやりとりができます

※別途送料がかかります

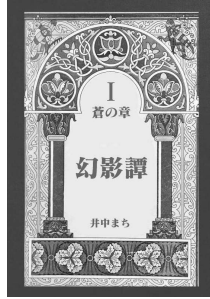


(<https://kawazusyobou.booth.pm/>)



## カワズ書房の本

『幻影譚』シリーズ 1～3巻 各1,000円(以下続刊)



幻影譚二次創作アンソロジー『幻影たんっ☆』 500円 ※在庫僅少

「一瞬に込めた祈りの意味を、  
知るのは自分だけでいい。」

優れたボーイソプラノを持つ  
聖歌の歌い手と、絶望的な状  
況の中で現れた型破りな神子。  
二人の少年の一瞬と永遠を描  
く純文学寄りファンタジー。

### 暁を抱いて眠れ

文庫サイズ(カバー付)  
126p/500円



発行日	2019年10月12日
著者	井中まぢ
発行者	カワズ書房
印刷所	ちよ古っ都製本工房
連絡	kawazushobou@gmail.com @Nostalgic_town



カワズ書房